

令和6年度 岐阜県教科用図書 第2回 可茂地区採択協議会 議事要旨

1 日時 令和6年7月4日（木）9：30～16：30

2 会場 可児市総合会館 5階大ホール

3 議事

（1）事務局からの説明

- ・公正確保について
- ・教科用図書の調査研究の概要

（2）可茂地区採択協議会会長 挨拶

- ・協議会の開会の宣告
- ・可茂地区において、教科用図書を選定することについて

（3）会の成立

- ・委員の半数以上の出席があり、会が成立することを確認

（4）議案の審議

- ・規約第3条に基づき、可茂地区採択協議会副会長を議長として議事を進行

■「国語」の調査研究報告

- ・国語教科書で調査した発行者は、【東京書籍】、【三省堂】、【教育出版】、【光村図書】の4者。
- ・国語科では、これからの時代における学びの要素として、「知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力のバランス」「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学びと協働的な学びの充実」「ICTを活用した学習」を大切にしたいと考えているが、4者ともこれらの着眼点においては一定の水準を保った工夫や配慮が成されている。
- ・上記を考慮し、4者を比較すると、学年間の系統性・発展性、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実、文字の大きさや書体等の見やすさ、個別学習に適した資料やてびきの充実度などから、【三省堂】と【光村図書】が優れていると評価できる。

- ・絞り込んだ2者について説明

- ・着眼点1－（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

【三省堂】

各教材のあとに「学びの道しるべ」と題して、様々な言語活動が紹介され、学力の向上に向けた多様な学習を展開することができる。ただし、単位時間の活動が多岐にわたるため、付けたい資質能力をやや焦点化しにくいところがある。

【光村図書】

教材ごとに「学びへの扉」と題した学習の手引きがあり、単元を通した学習の流れが見通せるため、生徒にも教師にも学習展開がつかみやすい。また、個別の学習に役立つ要素があり、学習者の理解や表現のために参考となる要素が手厚く揃っている。

- ・着眼点 2－（１）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実について

【三省堂】

1年生から論理的に思考する力の向上を図る意図が感じられ、そこで生じる様々な個別学習のために、二次元コード参照先のサイトに資料を用意してサポートしている。また、各学年の初めにグループディスカッションを位置付け、協働的な学習への基盤を作るとともに、話すことや書くことに対して苦手意識を持つ生徒にとって、抵抗が下がる内容になっている。さらに協働的な学習を促す教材が用意されている。

【光村図書】

言葉の使い方・言語文化・語彙を豊かにするための小単元や資料が豊富で、表現のための知識・技能を高められるようになっている。「話す聞く」「書くこと」に関しても、抵抗がなくなるような工夫が随所に見られる。また、「学びのカギ」を位置づけ、単元で付けさせたい力につながる見方・考え方の具体を示すことで、生徒が協働的に学習しやすくなっている。さらに、協働的活動を促すヒントマークや、個別学習と協働的な学習の一体化を図る教材もあり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実が成されている。

- ・これらに加え、評価のしやすい学習課題の提示、字体やフォントの大きさや挿絵や色遣いなどの見やすさ、資料や語彙ブックの使いやすさや充実度などの長所が【光村図書】に数多く存在している。
- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には【光村図書】がより適していると考えた。

■「書写」の調査研究報告

- ・可茂地区国語科が大切にしていることを受けて、調査研究を各調査項目について進めた結果、【東京書籍】、【三省堂】、【教育出版】、【光村図書】の4者どの教科書にも工夫が見られた。

- ・絞り込んだ2者について説明

- ・着眼点 1－（３）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

【光村図書】

1年生指導内容「点画の連続」において、学習の内容が分かりやすく、見やすいように配慮されており、見開きで学習内容が完結するので、生徒は、見通しをもった学習ができる。

【東京書籍】

1年生指導内容「点画の連続」において、目標から振り返りまで、一目で学習内容を把握できるよう配慮されている。さらに、教材文字を上部に、書き込み欄を下部にすることで、見やすだけでなく、利き手に左右されない紙面構成となっている。また、中学校で初めて学習する「行書」の書き方のまとめのページが各学年2ページずつ、計4ページ設定されている。

- ・調査項目 1－（２）各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性について

【光村図書】

2年「職業ガイドを作ろう」では、活動の目標と手順を視覚的に捉えられるように配慮されている。一目見て活動の目標が理解できる反面、活動の途中経過は文字でしか分からない。

【東京書籍】

2年「地域の活動に参加しよう」では、活動の目標と進め方、途中経過を視覚的に理解できるように配慮されている。それにより、生徒が学びを日常生活に生かしやすくなっている。

- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には【東京書籍】がより適していると考えた。

《報告を受けて協議》

- ・国語科でこれから大切にしたい学びの要素に関わる可茂地区の中学生の実態は。
⇒協働的な学びになかなかうまく入れない子ども達を含め、多様な生徒が存在するという実態がある。そこで、協働的な学びにスムーズに入っていける授業展開をうまく示し、手引きの配置の仕方が先ほどの2者は優れているということで紹介した。
- ・図書館利用及び読書に関わっての教材の違いは各者どうであったのか。
⇒様々な図書利用についての紹介ページがどの教科書にもあり、さらに ICT でのリンク等で関連書籍の紹介等がされるといった配慮がある。
- ・外国籍の児童生徒への配慮はあるか。
⇒学び方の様々なスタイルを紹介したり、個別学習に参考となる資料をより多く載せたり、開いたページで何を学習すればいいのかということが見やすかったりするという配慮がある。
- ・話すこと聞くとともに聞くことの領域について、2者でどのような言語活動を取り上げ、どのような特徴の違いがあるのか。また、その単元の取り扱い方は。
⇒【三省堂】は、まず学年の初期段階でグループディスカッションを取り入れ、生徒主体で対話的に学ぶという基盤作りをして、そこから各教材での協働的な学びに至る展開に役立てる段階を特に重視している。
【光村図書】については、学習者の表現についてのサポートが非常に手厚く、学びの扉で、個別の学習などに話し合いや交流でどう深めていくかというプロセスが示されている。
単元の取り扱いについては、光村図書の特徴を述べることで、回答としたい。【光村図書】には、SDGS との関連、それから教科横断的な試験というものが示され、学習の流れを掴み、それを日常でどう生かすかという手引きが各教材ごとに載せてある。
- ・前回の国語の教科書では、ディベートが多く取り上げあげられたり、あるいはスピーチの言語活動が取り上げられていたりしているところが多かったが、今回の改定でそうした特徴的はあるか。
⇒今回はかつての教科書の各者の特徴となりうる言語活動が取り上げられているような印象はない。
- ・【東京書籍】と【光村図書】の両者に、左利きの子達への対応への配慮はどの程度あり、そこに違いはあるのか。
⇒書き込み欄を左右に配置する形にすると、左利きの子は手本が消えてしまったり、視界から消えたりすることがあるが、【東京書籍】は上下に配置し、これを防ぐという配慮がなされている。
- ・国語科の教科書と書写の教科書との連動について、調査の中で議論があったか。
⇒大きく話題にはなっていないが、個別の考えを形成した上で、仲間と交流したり、検討重ねたりして内容を深めていくという国語的な要素と、それらをいかに読む人、見る人に、美

しく分かりやすい形で表現するかという要素。そしてそれら一つ一つの文字をいかに丁寧に書くか。そういった配慮が各者の教科書にあるが、先ほどの2者、特に【東京書籍】に大きく出ている。

○中学校「国語」教科用図書採択原案について、可決

○中学校「書写」教科用図書採択原案について、可決

■「社会」の調査研究報告

・調査項目3について

全者ともに、ユニバーサルデザインを意識した文字の大きさ、書体、色使いである。さらに、目次、巻末、索引、注、凡例等が掲載されており、利用者の立場に立って作成された教科書と言える。ほとんどの教科書にデジタルコンテンツが豊富に用意され、タブレットを使っでの学習が一般的になった現在の流れにそった教科書といえる。

・絞り込んだ2者について説明

<地理的分野>

・着眼点1－（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

【日本文教】

「気候推理ゲーム」を行い、写真をもとにどの気候なのかを話し合ったり、推理ゲームをつくって考え合ったりすることで、楽しくこの単元で学習したことをまとめることができる工夫がなされている。

【B 東京書籍】

世界一周旅行をグループで企画し、世界の様々な地域の気候、食事、服装などを考えながら、いつ行くのが良いのかを仲間と話し合う。個によって意見の相違があることが当然予想され、それだけ広く、深い学びができると言える。

・「主題図の読み取り」について

【日本文教】

アメリカ・カナダの農業について理解できるように、どのように読み取ればよいのか丁寧に構成されている。

【東京書籍】

東アジアの降水量と人口密度の主題図を掲載し、「人口と降水量には、どのような関係があるのか」と投げかけている。また、シャンハイの人混みがわかる写真と「地域別GDPを表す主題図」を掲載し、複数の資料を結びつけて考えようと投げかけている。主題図の読み取りは、小学校でも取り上げられており、中学校では2つ以上の資料を関連させて考えたり、表現したりする力が求められている。以上の点から、【東京書籍】は、考える力、説明する力に力点を置き、主体的・対話的で深い学びを可能にする教科書と言える。

<歴史的分野>

・着眼点1－（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

【日本文教】

両者とも1単位時間の学習を見開き2ページの構成となっている。また、学習課題が明確に示され、学習課題を解決するための資料も精選し、そして1時間のまとめとして、【日本文教】は「確認、表現」、【東京書籍】は「チェック、トライ」で、基礎的・基本的な内容の確認や表現する力をつけることができる。さらに、【東京書籍】では、「みんなでチャレンジ」で、「大名の統制について考えよう」と仲間で話し合うことを投げかけている。

【東京書籍】

グループで協力しながら取り組む、対話的な活動コーナー「みんなでチャレンジ」が34か所もあり、とても充実している。これにより、仲間とともに学習することで、一人一人の社会的な見方・考え方の育成につながるとともに、主体的・対話的で深い学びにつながると考えられる。

<公民的分野>

- ・着眼点2－(1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について

【教育出版】

両者とも、学習したことを振り返るページが設けられている。さらに、【東京書籍】は「探求のステップ」というコーナーを設け、各節で学習した内容を図や表を作成することで学び直しを行うことができる。

【東京書籍】

まとめの活動として、「S市の議員となって条例を作ろう」と投げかけグループで意見交換をする中で、様々な人々の立場になって考えることができる。このように、多面的・多角的な見方・考え方ができるような工夫がなされている。さらに、章末だけでなく、「みんなでチャレンジ」というコーナーが28か所もあり、どの授業においても、主体的・対話的な学びが可能となっており、学習指導要領に示された「自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決するなど、確かな学力の育成」につながると考えられる。

- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には【東京書籍】がより適していると考えた。

《報告を受けての協議》

- ・日本人としての誇りを育成するという観点から、どのような特徴があるかを教えてほしい。
⇒日本人としての視点で考えると、基礎的な日本の歴史とか、日本の地域で働く人々と世界の人々、公民として自分がどういう考えを持つかという力をつけてほしい。その上で、国際化社会を考えて、現在の問題を取り上げるというのは各者ともあるが、【東京書籍】に関してはバランスよく幅広い。先生方が教科書を使う時に色々な工夫ができる。
- ・経済の内容について。高等学校は学習指導要領で成人年齢が引き下げになり、踏み込んだ内容になっている。小中学校でもそれを意識して学習指導要領は改定されている。経済や契約、金融教育について、【東京書籍】が各他者の教科書に比べて良い点があれば、教えてほしい。もう一点、可茂管内には小さな学校があり、幼少期から同じ人間関係で過ごしていて、仲間同士で磨き合うことに課題がある。小さな学校も学びやすいという視点を教えていただきたい。
⇒経済に関しては、金融教育は以前から【東京書籍】で重点的に取り扱っている。特に、主体的で深い学びのために、みんなで考えるコーナーが1.5倍ぐらい増えている。学び合うことは、4人程度の小グループで学び合うことが多いので、教科書をもとに、互いの考えや資料の見方について意見しあうことにより、判断力につながると考える。
- ・3分野について教科書の内容を元にした結果、【東京書籍】の教科書を3分野で扱うことにより、

分野間の教科書の関連、メリットがあれば教えてほしい。

⇒メリットは、使う子ども達が色彩や構成の違いに迷わないことである。一・二年生で、歴史と地理を單元ごと交互に学ぶ進め方が多いので、ユニバーサルデザインのことを考えた学びやすい教科書を使うことは効果的と考えている。

○中学校「社会 地理的分野・歴史的分野・公民的分野」教科用図書採択原案について、可決

■「地図」の調査研究報告

・調査した発行者は、【東京書籍】と【帝国書院】の2者である。

・着眼点1－（2）について、「三分野及び現代社会の諸課題との関連」で比較

【東京書籍】

総合的な学習の時間や外国語活動、音楽科でも活用できる要素が多く取り入れられている。また、歴史的分野及び公民的分野に関する資料が多く掲載されている。

【帝国書院】

総合的な学習の時間や外国語活動、音楽科でも活用できる要素が多く取り入れられている。また、歴史的分野及び公民的分野に関する資料が多く掲載されている。さらに、SDG s 学習や自然災害、防災学習について、解説や取り組み事例などが詳しく取り上げられている。

・資料として、SDG s 学習の活用ページ数は、【東京書籍】が1ページに対して、【帝国書院】は7ページ。自然災害や防災学習の活用ページ数は、【東京書籍】が2ページに対して、【帝国書院】は4ページ。

・着眼点2－（1）について、「学習に取り組むための資料の構成、分量」で比較

【東京書籍】

主体的・対話的に地図帳を活用していくための資料として、主題図は225点扱われ、総資料数は505点となっている。

【帝国書院】

主体的・対話的に地図帳を活用していくための資料として、写真資料が204点、主題図は284点扱われ、総資料数749点と非常に多い。

・資料として、南アジア、西アジアの資料ページでは、【東京書籍】は2ページで8点の資料に対して、【帝国書院】は2ページで13点の資料を扱っている。

・調査項目3－（2）について、「生徒に読みやすいものか」と「印刷の状況」を比較

【東京書籍】

文字には、すべて丸ゴシック系のUDフォントを使用し、地名表記は縁取りがしてあり、重なり部分も見やすくなっている。

【帝国書院】

都市名や自然地域名称等にUDフォント、都道府県名等は独自のUDフォントが使用され、とても見やすくなっている。

- ・配色について、中部地方の地図の例にすると、【東京書籍】は落ち着いた色彩を使用しているのに対して、【帝国書院】は明るくメリハリのある色彩で、より立体的に見えるよう工夫されている。
- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には【帝国書院】がより適していると考えた。

《報告を受けての協議》

- ・【帝国書院】の方が、かなり資料数が多いとのことだが、ページ数はどうなっているか。
⇒総ページ数は変わらない。1ページにおける資料の件数が帝国書院の方が多く系統性があると感じている。
- ・総合的な学習の時間や外国語活動でどのように地図帳が利用できるのか教えてほしい。
⇒地図帳を社会科だけで使うのではなく、総合的な学習で自分が宿泊研修などに行く場所の様子を調べたり、音楽科の場面でいえば、外国の作曲家の出身地などを調べてみたりするなど、活用できると考えている。
- ・その点で、2つの地図帳の違いはなにか。
⇒違いは、資料の点数と見やすさである。【帝国書院】の方が非常に立体的で、地理的に見やすいという色彩の優れた部分があった。
- ・同じページ数で資料点数が多いということは、それだけ一つ一つの資料にかかるスペースが小さくなったり、細かくなったりして、見づらい部分もあるのではないか。二次元コードなどのリンクが貼ってあるなどの工夫はあったのか。
⇒二次元コードを使つての資料についても【帝国書院】の方が多くあった。1ページの中に資料点数が多いと見づらいという点については、資料の種類が、グラフ統計資料よりも地図資料、人や産業の分布などの資料点数が多いため、比較した結果、見づらさについてはあまり差を感じなかった。

○中学校「社会 地図」教科用図書採択原案について、可決

■「数学」の調査研究報告

- ・調査した発行者は、【東京書籍】、【大日本図書】、【学校図書】、【教育出版】、【啓林館】、【数研出版】、【日本文教】の7者である。
- ・着眼点2－（１）「個別最適な学び」、着眼点2－（３）「ICTの観点」について
2次元コンテンツのコンテンツ数は、【東京書籍】【啓林館】の2者がとても充実していることが分かった。
【東京書籍】
各ページには、Dマークとともに、どんな内容を見られるかが示されている。補充問題もたくさんあり、ステップごとの解説などが丁寧である。よって、「指導の個別化」に十分対応することができる。
【啓林館】
各ページには、QRコードの横に、見られる内容が示されている。【東京書籍】同様、たくさんの補充問題に取り組める。また、動画やシミュレーションもあり、「指導の個別化」に対応するこ

とができる。

- ・ 絞り込んだ2者について説明

- ・ 着眼点1－(3)「主体的で深い学び」について

【東京書籍】

章を貫く題材をいくつかの章で用意し、疑問を次の節へとつなぎながら主体的に問題解決していけるよう大変工夫されている。

1年生「文字と式」では、単元導入で、正方形の問題を扱い、正方形が増えていくときの棒の数を、文字を使って考えさせる。そして、利用の学習で、3次元の立方体が増えていく形へとつないで、深い学びへと促している。さらに、条件を変えて考える「それなら」を示すことで、より主体的で深い学びへと促す工夫がある。また、「大切にしたい見方・考え方」も明記されており、活用のよさや数学のよさを実感できる工夫もある。教師にとっては、「この見方・考え方を押さえればよい。」ということが分かりやすい。

【啓林館】

同じく、1年生「文字と式」では、単元導入で日常の具体的な事象で入り、掲示物が増えるときのマグネットの数を文字を使って考えさせる。文字の計算の学習で、その掲示物の貼り方を変えた場合を考えさせる工夫がある。しかし、利用の節では、「数あてマジック」になっており、単発的な扱いになる。文字を活用するよさや学びの発展性の実感には、やや弱さがあるように思われた。

- ・ 着眼点1－(3)「対話的で深い学び」について

【東京書籍】

ほぼ全ての章末に、「深い学び」のページを設定し、対話的な深い学びとなる数学的活動が行えるように大変工夫されている。

2年生「連立方程式の利用」では、ページの横に「問題をつかむ」「見通しを立てる」「問題を解決する」など、学びの流れが示されている。また、「友達の考えを知ろう」「話し合ってみよう」など、協同的な学びや対話的な学びができるように示されている。そして、表や式などが適切に示されている。ここにも、「それなら」で、他の条件でさらに考えてみようとする「深い学び」へと促し、本時で「大切にしたい見方・考え方」が示されている。

また、問題の解法の示し方は、右側に解き方の流れを示し、他の問題でも適用できるよう工夫され、大変分かりやすい。

【啓林館】

同じく、2年生「連立方程式の利用」では、「問題設定」「見通し」、そして、解決した後の「振り返り」が、ステップで分けられている。学びの流れは分かるが、ステップにより思考が途切れてしまう感じがする。教科書に書いてある通りに進めていくことになり、対話を生み出す感じがしない。最後の「深める例」によって、別の問題で「深い学び」を促している。

また、問題の解法の示し方では、解法のステップが式の前や後に横書きで示されており、やや分かりにくい解説となっている。

- ・ 比較検討した結果、可茂地区の生徒には【東京書籍】がより適していると考えた。

《報告を受けての協議》

- ・つまずいたときに、立ち返って学び直しをし、それをきっかけに新たな知識・技能を獲得していく、このような生徒の主体的な学びを促していく、教科書上の編集や構成の特徴というのが、【東京書籍】にはあるか。
⇒【東京書籍】には、章末問題が豊富にある。その章末問題が、基本の問題と、発展の問題とにページで分かれているので、個に応じて取り組む問題を選択することができる。また、学習ごとに、「クイックチェック」で、自分が理解できているかを確かめられるようになっている。どんどん学べる子がチャレンジできる工夫もある。他にも、練習問題の中に「ハートマーク」付きの問題があり、苦手な子は「ハートマーク」だけ取り組むなど、練習問題を個に応じて取り組むことができる。
- ・学校の事情によっては、免外の先生や経験が少ない先生が教えることがある。そういった先生方にとっても扱いやすい教科書になっているか。
⇒【東京書籍】の特徴として、この1時間が、知識や技能を大切にする時間なのか、協働的・対話的に学び、深い学びを目指していく時間なのかが分かりやすくなっている。免外や経験の少ない先生にとっても、その判断が分かりやすいと思う。このようなメリハリをつけた指導を行うことが、可茂地区の課題であると考えてるので、その点でも【東京書籍】は優れている。

○中学校「数学」教科用図書採択原案について、可決

■「理科」の調査研究報告

- ・調査した発行者、指導要領の趣旨等の説明
- ・着眼点1－（1）資質・能力の三つの柱をバランスよく育成について
【東京書籍】
「問題発見」、「？（課題）」、「構想」、「実験」、「！（結論）」などの言葉や記号を使い、課題把握、探究、解決までの流れが非常に分かりやすい。
【大日本図書】
キャラクターの吹き出しや「？（記号）」、「問題を見つけよう」「振り返ろう」といった表記を使い、生徒の思考に寄り添いながら、見通しをもって探究的に学習を進められるように配慮している。
【学校図書】
気づき、課題、仮説、計画、方法、結果、考察といった思考と授業の流れを言葉とともに矢印で示し、「何ができるようになるか」を意識した授業ができるようにしてある。
【教育出版】
疑問、課題、観察・実験、考察、結論といった言葉と記号を合わせたマークを使い、課題の解決に向けて、見通しをもって取り組むことができるようになっている。
【啓林館】
まとめの文章は、色分けして表示され、分かりやすい言葉で表されている。また、「考えてみよう」「活用してみよう」など、思考・表現の活動場面が用意されており、科学的に探究できるようになっている。
- ・絞り込んだ2者について説明

- ・着眼点 1－（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

【東京書籍】

「じっくり探究」の節を設定し、生徒どうしの対話の具体例や「理科の見方・考え方」を適宜示し、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるようになっている。

【啓林館】

「探Q実験」の節を設定し、生徒同士の対話例や書き込みのできるシートが教科書に用意されており、誰もが、主体的・対話的な学びが実現できるようになっている。

- ・着眼点 2－（1）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について

【東京書籍】

各自が立案した仮説や予想を基に、複数の実験方法から選択できる場面を設け、一人一人に応じた学習を可能にしている。また、探究の過程における対話例の掲載が非常に多く、協働的かつ主体的に学習する態度を育成できるようにしている。

【啓林館】

個の特性や興味に応じて学びが広がり深まるよう、日常や学習内容からの疑問を「探Qのたね」に位置付け、一人一人に応じた学習が位置づいている。また、「考えてみよう」や「発表してみよう」を設定し、他者との協働によって考えをより妥当にするよう促す機会が多い。

- ・着眼点 2－（2）生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価について

【東京書籍】

「探究をふり返ろう」の活動を設定し、探究の過程の妥当性について考えられるようにしている。また、単元や章ごとに「Before After」を設定し、学ぶ意味や自分の成長を実感できる機会が、特に多い。

【啓林館】

「探究のふり返り」を設定し、探究の各過程の妥当性や、残っている疑問、新たな課題について考えることができるようにしている。また、「学ぶ前にトライ」「学んだ後にリトライ」を設け、学習を自己評価して学びの深まりを実感できるような機会が多く設定されている。

- ・着眼点 2－（3）ICT を活用した学習活動について

【東京書籍】

二次元コード数は、1年：163、2年：200、3年：200で、合計：563

【啓林館】

二次元コード数は、1年：155、2年：176、3年：173で、合計：504

- ・着眼点 3－（1）教科書の厚み、重量について

【東京書籍】

扱いやすさを感じている。また、「学習内容の整理」では、すべての漢字にふりがなが付されている。

- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には【東京書籍】がより適していると考えた。

《報告を受けて協議》

- ・複数の実験方法があるのは【東京書籍】だけか。他の教科書会社でもあるのか。
⇒【東京書籍】のみ。
- ・小規模校が多い関係で免外の人が使うことを含め、昨今実験中の事故もあった。子ども、先生
の目で見て安全にかかわる指導配慮の記述についてどうなっているか。
⇒実験の安全配慮については、どの教科書も表記してあるが、【東京書籍】がマークや色で強調
してあり、全体的によいと判断した。
- ・1－（3）探求の過程において働かせる理科の見方・考え方がどのように扱われているか。学
年の段階や繋がりを踏まえた取扱いや、深め、身に付けていくための工夫において【東京書籍】
に顕著な特徴があるか。
⇒細かい説明や量、言葉の使い方は、【啓林館】のほうがよいが、【東京書籍】のほうが言葉
的に非常にわかりやすいと判断した。学年間については、どの教科書会社もある程度配慮して
ある。学年に応じた言葉を使って配慮がある。全体的に見て、【東京書籍】がよいと判断した。
- ・【東京書籍】と【啓林館】の2者を最終的に比較している。【東京書籍】が優れている点がわか
らなかった。【東京書籍】の着眼点における良さや優劣をつけた部分を具体的に教えてほしい。
⇒一点目は、【東京書籍】は見開き1ページで1時間を終わらせるような作りがほとんどなされ
ている。二点目は、学習のイントネーションマーク。【東京書籍】以外の他者は、まとめをそ
のまま言葉でまとめている。【東京書籍】は生徒に戻して、考えるようになっている。まとめ
かたの例も後半に示されており、他者にはないよさとする。

○中学校「理科」教科用図書採択原案について、可決

■「音楽（一般）」の調査研究報告

- ・調査項目3について
【教育出版】
若干、軽くて薄い。
【教育芸術社】
文字の書体が、太く読みやすい。
- ・着眼点1－（1）資質・能力の三つの柱をバランスよく育成について
【教育出版】
「学習MAP」のページで、3つの資質・能力についての関係性と、教材同士の関連を示し、系統
的に学べるようになっている。また、「音楽を形づくっている要素」に関わっては、「学習の進
め方」としてまとめている。鑑賞を通して、各要素の働きについて考える学習が位置付けられ
ている。
【教育芸術社】
「学習内容」のページで、3つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材同士の関連を示
し、身につけたい学力が分かりやすくなっている。また、「音楽を形づくっている要素」に関わ
っては、学習内容に即したものに精選して示されており、生徒の実態と授業に合わせて、教師
が工夫して扱えるようになっている。ある旋律を題材にし、演奏したり聞いたりして確認する
学習が位置付けられている。イラストや既習曲の楽譜等を例示し、それぞれに要素をイメージ
しやすくなっているため、生徒にとって非常に分かりやすい。

- ・着眼点 2－（１）「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体的な充実について、2・3 年下の歌唱共通教材「花」で比較

【教育出版】

学習目標「曲の形式を生かして歌おう」となっている。

【教育芸術社】

学習目標「情景を思い浮かべながら、言葉を大切に合唱しよう」となっており、教育芸術社の方が、より具体的になっている。

【教育出版】

学習についてのヒントがここに記載されている。

【教育芸術社】

曲の解説や気を付けるとよいこと、また「歌詞に描かれた情景や日本語のもつ美しさは、音楽にどのようにあらわされているのだろう」と投げかける言葉があり、生徒が主体的に学習に取り組むことができる要素がたくさん用意された分かりやすい紙面となっている。

- ・着眼点 2－（３）ICT を活用した学習活動について

2 者とも、目次に、学習に役立つ情報が見られるウェブサイトの二次元コードが掲載され、動画や音源、ワークシートが活用できる。

【教育芸術社】

「花」の楽譜に掲載された二次元コードを読み取ると、「ソプラノパート」「アルトパート」「カラピエノ」等の音源が出てくる。ほとんどの歌唱教材に、パート別音源のウェブサイトが用意されており、二次元コードから簡単にアクセスすることができる。これにより、今まではパート別 CD を使わないと練習できなかったことが、いつでもどこでも、自分で音を聞き、学習することができる。生徒の「学びたい」「分かりたい」「できるようになりたい」を後押しすることができると思う。

- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には【教育芸術社】がより適していると考えた。

■「音楽（器楽）」の調査研究報告

- ・調査項目 3 について

【教育出版】

巻末に楽典に関わる折り込みページを設け、ギターのコード表やリコーダーの運指表を写真や図で掲載している。

【教育芸術社】

同様の掲載があり、さらに「楽器の図鑑」のページにおいて、世界の楽器を紹介する資料が添えられている。

- ・着眼点 1－（１）資質・能力の三つの柱をバランスよく育成について、「アンサンブル曲の取り上げ方」を比較

【教育出版】

『Let's Play!』と『Let's Try』に分け、学んだことを生かして取り組むアンサンブル曲を難易度順に掲載したり、一人で演奏できる曲を掲載したりするなど、生徒の実態に配慮し、学

習意欲を喚起する工夫がなされている。「名曲旋律集」では、有名なクラシック曲の一部をリコーダーで手軽に演奏できるようになっており、生徒の学習意欲をより高められる工夫がされている。

【教育芸術社】

学んだことを生かして取り組むアンサンブル曲が難易度順で掲載されている。系統的、発展的に学ぶためのアンサンブル曲には、考えたいポイントが掲載されており、生徒が課題意識を持ち、主体的に学習に取り組むことができるようになっている。また、「アンサンブルセミナー」や「学びのコンパス」では、音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的に学習に取り組むことができるようになっている。さらに、リコーダー、箏、三味線、篠笛でクラシックからポップスまで幅広いジャンルの曲を演奏できる「楽器で Melody」があり、生徒の学習意欲をより高められる工夫がされている。

- ・着眼点 2—(1)「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体的な充実について、「箏の学習」を比較

【教育出版】

箏の歴史を導入とし、各部の名称や基本的な構えと奏法を身に付ける。学習目標は3つあり、4つの練習曲と2つのまとめの曲を通して、曲にふさわしい奏法を身に付ける。

【教育芸術社】

最初に鑑賞として箏の演奏を聴いてから歴史を学ぶ。その後、各部の名称や基本的な構えと奏法を身に付ける。学習目標は6つに細分化され、それぞれの学習活動に合わせて、練習や演奏のポイントが分かりやすく明記されている。練習曲や教材曲は、生徒の技能段階に合わせて選曲されているため、自分のペースで無理なくふさわしい奏法を身に付けることができる。また「かき爪」「押し手」「引き色」「割り爪」「押放」「合せ爪」の6種類の奏法が取り上げられており、自分の技能段階に合わせ、発展的な学習がしやすくなっている。これらの技能については、二次元コードからウェブサイトアクセスし、動画で確認ができるようになっている。

- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には【教育芸術社】がより適していると考えた。

《報告を受けての協議》

- ・音楽科教師が学校に一人という現状を考えた場合、経験が浅い教師でも充実した授業ができるという視点での良さを教えてほしい。
⇒【教育芸術社】の「花」の楽譜を見ると、1紙面に、どんな力をつけたいか、どのように学習を進めるか、子どもにどう思うかという投げかけなど、全ての情報が入っている。子どもだけでなく、教師にとっても、この時間に何を教え、どんな力をつければいいのかということが分かりやすい。【教育出版】も専門的な内容にはなっているが、【教育芸術社】の方が教科書を見るだけで、学習の流れがつかみやすい。
- ・音楽の授業は、教材曲を教えるのではなく、教材曲を通して力をつけることが大切だと思うが、歌唱曲の例以外に鑑賞曲でも良さがあれば教えてほしい。
⇒【教育芸術社】の「学びの地図」で、思考力判断力表現力、知識、技能等の力が歌唱、創作、鑑賞それぞれの教材についてこんな力をつけたいということが明記されている。子ども、教員、誰が見てもこの曲では特にこの力をつけたいという重点を意識して指導することができる。

- ・感想だが、合唱をする学校は多いが、クラスにピアノが弾ける子がいない、音取りをする子がいないという現状はあると思うので、二次元コードで音取りができるような仕組みはありがたい。

○中学校「音楽の一般、器楽合奏」教科用図書採択原案について、可決

■「美術」の調査研究報告

- ・美術科の目標について説明

- ・調査した3者【開隆堂】、【光村図書】、【日本文教】のそれぞれの特徴について

【開隆堂】

思わず触りたくなるような加工を表紙に施すことで、美術作品を見て楽しむことはもちろん、指先で触って作品の質感を想像するなど、興味・関心を高める配慮がなされている。

【光村図書】

様々な技法や用具、材料の扱い方が掲載されている資料集を別冊として設けている。経験年数の浅い先生や講師の先生にとっても指導しやすい配慮がなされている。

【日本文教】

生徒が美術の働きを実感的に理解し自らの生活に生かせるよう、家庭や地域社会に結び付いた題材、事例を数多く掲載したり、現代的な諸課題への配慮を示したりしている。

- ・絞り込んだ2者について説明

- ・着眼点1－（2）各学年相互間の関連及び系統性、発展性について

【光村図書】

学習指導要領の目標や内容の構成に合わせて、「1年」、「2・3年」の2冊構成になっている。

【日本文教】

「1年」、「2・3年上」、「2・3年下」の3冊で構成されている。各冊ごとに発達の段階を考慮した内容で、かつ系統立てられた題材設定がされており、3学年の成長に応じたきめ細かい指導がさらに進められるようになっている。また、小学校図画工作科からの連続性についても十分考慮されており、生徒にとって確実な学びが保証されている教科用図書であると言える。

- ・着眼点1－（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、「身の回りの物を見つめ、絵として表現する題材」で比較

【光村図書】

題材の目標、題材に関連する鑑賞、参考となる作品等が示されている。

【日本文教】

目標、題材の入り口となる鑑賞、参考となる作品とともに、題材ごとに造形的な視点を示している。この造形的な視点は、生徒が造形的な見方・考え方を働かせるための重要な要素で、表現や鑑賞の活動を進めるうえでの具体的なヒントとなるものである。また、「思考力、判断力、表現力等」の目標の表記が、「構想を練ったり、鑑賞したりする」となっている。美術科における「思考力、判断力、表現力等」は、表現の発想・構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力の両方が含まれるため、この表記の仕方はより適切であると言える。このように【日

本文教】は、学習指導要領の趣旨、目標、内容に沿ったつくりになっていると言える。

- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には【日本文教】がより適していると考えた。

《報告を受けての協議》

- ・美術は、本物に触れることが表現においても、鑑賞においても大切だと思う。その視点から見た時のよさがあれば教えてほしい。
⇒鑑賞は、本物を見せることが一番であるが、現実的に子どもたちに本物に触れさせる機会を持たせることは難しい。しかし、例えば、【日本文教】の「土器の鑑賞」の二次元コードを読み取ると、鑑賞できる土器が平面だけではなく、いろんな角度から見るができるようになる。これ以外にも【日本文教】では、子どもの参考作品も多数紹介されている。
- ・可茂地区の子ども達の課題は何か。その視点からで今回採択にあたって、特に配慮したことは。もう一つ、【日本文教】で、特に「表現の自由」など、現代的な課題についてどのような取り上げられ方がされているのかを教えてください。
⇒可茂地区の子どもたちは、表現の技能よりも、発想や構想でつまづくことに課題がある。今回の教科書では、その発想や構想をより広げるための指導がしやすいような配慮がなされている。例えば、アーティストがどうやって作品を作っているのかの発想のプロセスが紹介されている。また、生徒がどうやったら作品作りができるのかを紹介している。
現代の諸課題について、「二・三年生の上下」の教科書には、「住み続けられる街づくり」ということで、持続可能な街づくりという視点からの題材、発想や構想が紹介されている。また、多様性という観点から様々なアートに触れるといった新しい表現の数々が紹介されている。社会と関わるベースとして、現代の諸課題への対応ということで多数紹介されている点は、【日本文教】の特徴だと考える。

○中学校「美術」教科用図書採択原案について、可決

■「保健体育」の調査研究報告

- ・保健体育科の目標等について説明
- ・着眼点1－（1）資質・能力の三つの柱をバランスよく育成について、調査した4者【東京書籍】、【大日本図書】、【大修館書店】【学研】を比較
【東京書籍】
見開き1ページで、1時間の流れを「見つける」、「学習課題」、「課題解決」「活用する」「広げる」という項目で構成し、思考力・判断力・表現力を育成することができるようになっている。
【大日本図書】
「学習のねらい」に、知識・技能、思考力・判断力・表現力それぞれのねらいが設定しており、分かりやすい。
【大修館書店】
見開き1ページで、1時間の流れを「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」という項目で構成し、思考力・判断力・表現力を育成することができるようになっている。
【学研】
「学習の課題」に、知識・技能、思考力・判断力・表現力それぞれのねらいが設定しており、分

かりやすい。

- ・ 絞り込んだ 2 者について説明

- ・ 着眼点 1 －（２）各教科等及び各学年相互間の関連及び系統性、発展性について、「性に関する学習」で比較

【東京書籍】

中学生の性についての関心事や性情報の入手先をグラフに表しているが、同世代の人と自分自身を比較しながら関心を高めることに配慮されており、生徒にとって多様な考えを知ることができる。また、関連記事として、性の多様性の発展ページがあり、自分らしさと共に、その人らしさの違いを学ぶことも大切にされている。

【大修館書店】

性情報の入手先を中学生と高校生を比較し、性への関心には性差や個人差があることを強調している。また、コラムには「自画撮り被害の事例」をもとに、現代の問題でもある誤った SNS の使い方にも十分配慮されている。さらに、特集資料として、性的マイノリティの人たちが抱える不安や悩みを記載し、生徒にとって実生活の見方に変化を与える内容であると考え。

- ・ 着眼点 2 －（２）生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価について、「がんに関する学習」で比較

【東京書籍】

がんについての説明で、「がんとは、体の正常な細胞が異常な細胞（がん細胞）に変化して勝手に増殖することにより、周囲の大切な組織を壊してしまう疾病です。」と、がんという病気についての解説から始まっている。

【大修館書店】

がんについての説明で、「がんは生涯のうち 2 人に 1 人がかかるといわれる、現代の日本人にとっては身近な病気です。」と始めることで、生徒自身が自分ごととして身近に捉え、考えていくことができるような工夫がある。

- ・ 比較検討した結果、可茂地区の生徒には【大修館書店】がより適していると考えた。

《報告を受けての協議》

- ・ 協働的な学びの観点で、よかった内容があったら教えてほしい。
⇒【大修館書店】には、例えば、むし歯と歯周病に関する学習など、子ども達が意見を出し合いながら、より考えを深めていくことができるような資料提示がある。

○中学校「保健体育」教科用図書採択原案について、可決

■「技術」の調査研究報告

- ・ 技術・家庭科 技術分野の目標・資質能力について説明
- ・ 調査した 3 者【東京書籍】、【教育図書】、【開隆堂】のそれぞれの特徴について【東京書籍】

生徒の思考に沿って学習の構成・配列がなされているため、問題解決学習に取り組みやすい。
また、見やすい写真やイラストが多く使われており、作業工程が分かりやすい。

【教育図書】

多様な実験や実習を通じた体験学習が位置付けられている。また、ユニバーサルフォント・デザインを採用し、とても見やすい構成となっている。

【開隆堂】

丁寧な構成で、知識・技能の習得の視点が示され、実験観察などの体験的な活動を多く取り入れている。

- ・ 絞り込んだ2者について説明

- ・ 着眼点1－（1）資質・能力の三つの柱をバランスよく育成について

【東京書籍】

技術科の4つの内容がバランスよく配置されていて、各内容が1章「知識・技能」2章「課題解決」3章「社会の発展」という構成になっているため、生徒が学習の流れを見通しやすい構成になっている。また、知識・技能の習得については、工具の使い方など、実際の作業の様子が写真で掲載され、重要な部分や工具を動かす方向が矢印などでクローズアップされていて、たいへん分かりやすくなっている。

【教育図書】

各内容が1章「知識」2章「課題解決」3章「社会の発展」という構成になっているため、生徒が学習の流れを見通しやすい構成となっている。具体例が複数示されているため、生徒が実践しやすく生活につなげやすい工夫がされている。

しかし、技能に関することを扱った部分が別冊になっているため、技能に特化して扱いやすい反面、準備物の点数が増えることや紛失することも考えられるため、生徒にとって学習をしやすiといは言い難い。

- ・ 着眼点2－（1）「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体と充実について

【東京書籍】

見開きやガイダンスページ、各章末などの「技術の匠」コーナー、「資料」コーナーなどで、現在の技術に関わる状況、問題点、解決に向かう工夫などを、具体的な技術者の話をもとに紹介し、一人一人が様々な視点で取り組めるようになっている。

【教育図書】

ガイダンスページ、「技ビト」「スゴ技」コーナー、具体的な技術者の話などをもとに、生徒が課題を解決していく過程を紹介し、一人一人が様々な視点で取り組めるようになっている。

- ・ 着眼点2－（3）ICTを活用した学習活動について

【東京書籍】

コンピュータプログラムの例示として、双方向のものが5例、計測制御のものが6例紹介されている。さらに、二次元コードが各ページに合計で134か所配置されていて、デジタルコンテンツが活用しやすくなっている。

【教育図書】

コンピュータプログラムの例示として、双方向のものが6例、計測制御のものが3例紹介され

ているが、文字での説明が多いため、視覚的支援が必要な生徒には理解が難しいと考える。さらに、二次元コードで利用できるデジタルコンテンツが合計 56 か所で【東京書籍】と比べると豊富とは言い難い。

- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には【東京書籍】がより適していると考えた。

《報告を受けて協議》

- ・可茂地区の現状を見ると、免外で指導される方がいる。指導面や安全面の配慮について説明してほしい。

⇒【東京書籍】は、工具の使い方や技術に関わる写真が大変見やすく多く使われている。免外の先生でも、写真を見ればどのように指導するとよいか大変分かりやすくなっている。

- ・のこぎりやはんだの使い方が詳しく丁寧に説明されているという答申であったが、今の子どもたちが、のこぎりやはんだを自分たちの生活で使うことは、想像しにくい。今の時代に、二つの例が取り上げられている意味を教えてほしい。また、今時の生活を考えたとき、前回の教科書にもなかったような技術が取り上げられていれば教えてほしい。

⇒のこぎりやはんだを使う機会は随分少なくなっているが、今ある棚を別の場所で使うために、その場所に合ったサイズに作り変えるには、のこぎりで切断することがあると思われる。また、はんだについては、故障したプラグを直す時に使用する。授業では、そのような場面を紹介しながら学んでいく。

前回の教科書から大きく変わった内容はないが、デジタルコンテンツは充実している。

○中学校「技術」教科用図書採択原案について、可決

■「家庭」の調査研究報告

- ・技術・家庭科 家庭分野の目標について説明

- ・可茂地区では、免外で受け持つ教師が多いことについての説明

- ・着眼点 2－（１）について、「ガイダンス」を例に説明

【教育図書】

ガイダンスのページはあるものの、自分の生活を振り返える機会はなく、ほぼ写真で今後の学習内容が示されている。

【開隆堂】

教科書の活用方法、中学校での学習内容、家庭分野の学び方、生活課題の見つけ方、安全指導など、イラストや文字で 14 ページにわたり丁寧に説明されている。

【東京書籍】

教科書のページをめくって、学習したい内容や理由をあげて記入し、自分の生活を丁寧にチェックし、バランスを表すグラフとして示すことができる。これで、1 年生の最初と学習後の自分の生活を比較することができる。

- ・絞り込んだ 2 者について説明

- ・着眼点１－（１）について、「スナップ付け」を例に説明

【開隆堂】

半ページに、手元を拡大した写真で、手順を示している。文字での説明に頼る部分が多くなっている。

【東京書籍】

教科書の見開きに大きく手元の拡大写真とイラストを用いて手順を示している。写真で平面的に映したものと、イラストで立体的に説明しているため、大変分かりやすくなっている。加えて、生徒が行いそうな、失敗例が示されていることも、正しいスナップの付け方の技術の習得をしやすいとしている。

裁縫の経験の少ない生徒が多い中、針を刺す位置、スナップの置き方等がより分かりやすいことが、技能の習得には必要であり、免外教師にとっても、指導がしやすい【東京書籍】が、より配慮されていると考えた。

- ・着眼点２－（３）について、「着方の工夫」を例に説明

【開隆堂】

二次元コードがほぼ全てのページに掲載されている。同じ服の着方の工夫では、パーソナルカラーの診断表のワークシートが表示されるのみとなる。授業では、教師が実際に実物の布を準備し、チェックする学習となる。

【東京書籍】

二次元コードが、すべてのページに掲載されている。また、着方の工夫の学習では、タブレット上で、イラストの服の色や襟の形、柄や柄の大きさなどを自由自在に変え、試すことができる。加えて、写真で自分の顔を取り込みますと、自分に合った色や柄を選べるようになっている。布などを準備することなく、色と柄を同時に体験することができ、自分の手元で自分の顔に様々な色や柄の服をあわせることで、個々が思考力・判断力を働かせ、学習に向かうことが期待できる。この他にも、動きのある参考資料が多く見られたため、【東京書籍】がより配慮されていると考えた。

- ・着眼点３－（２）について、「ページ全体の色の使い方」を比較説明

【開隆堂】

ページ全体に色の占める割合が多く、せっかくの洗剤の写真や、学習をナビゲートするキャラクターが見にくく感じた。

【東京書籍】

ページ全体が白を基調としているため、図や写真、キャラクターなどが鮮明であり、注目しやすくなっている。

- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には、【東京書籍】がより適していると考えた。

《報告を受けて協議》

- ・スナップの付け方について、写真やイラスト等で具体的に示されていることは、非常に有難いと感じた。また、自分に似合った服や柄等をタブレット上で選ぶことのできるため、生徒にと

って学習が楽しくなると感じた。

- ・調理の学習において、「スナップ付け」のように生徒に分かりやすく説明されている特徴的な部分があれば教えてほしい。
- ⇒「調理の仕方」においては、2者を比較して大きな差は見られなかったが、【東京書籍】は見本が多く、身に付けた知識、技能を応用して調理する発展的な学びができると考える。

○中学校「家庭」教科用図書採択原案について、可決

■「英語」の調査研究報告

- ・調査した6者【東京書籍】、【三省堂】、【光村図書】、【開隆堂】、【啓林館】、【教育出版】のそれぞれの特徴について説明
- ・着眼点1－（1）資質・能力の三つの柱をバランスよく育成について
全者、5領域が各学年でバランスよく配置されており、「話すこと [やり取り]」の即興的な言語活動の設定にも工夫がみられた。
- ・着眼点1－（3）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について
1年生の初めでは、小学校でのコミュニケーションの基礎の活動から、中学校での理解し伝え合うコミュニケーション活動へスムーズに接続できる工夫がされていた。
- ・着眼点2－（2）生徒の学習改善や教職員の指導改善につながる学習評価について
全者、学習到達目標(CAN-DO リスト)が掲載されており、生徒自身が自己評価できるチェック方式になっていた。
- ・絞り込んだ2者について説明
- ・着眼点2－（1）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、「自分の考えや気持ちを表現するための工夫」で比較

【三省堂】

全単元で「Small Talk」が2回と「Small Talk Plus」1回が設定され、即興的なやりとりの言語活動に配慮されている。また、巻末の「Tips for Small Talk」では、即興的なやりとりにおける表現が掲載され、生徒が参考にして個別最適な学びを進める工夫がある。

【東京書籍】

巻末資料に「帯活動 Small Talk 即興で伝え合おう」が掲載されており、帯活動によって毎時間継続的に繰り返し、即興的なやりとり言語活動を行うことができるようになっている。また、「Expression List」では、質問と解答例・二次元コードが掲載され、生徒が主体的に活用したり、発展させたりして表現でき、個別最適な学びを進める工夫がされている。

- ・着眼点2－（1）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、「小集団による協働的な学びの充実」で比較

【三省堂】

広島での修学旅行を題材にした学習では、単元末の「Goal Activity」で、平和について読み取り、自分の考えや意見などを仲間と伝え合う活動が設定されている。その後の「Project」では、小集団で旅行プランを作成し、発表する活動があり、協働的な学びができる工夫がある。

【東京書籍】

絶滅のおそれのある動物を題材にした学習では、単元末の「Unit Activity」で、情報を伝える記事を作成した後、記事を読み合い、動物保護の方法について話し合う。小集団で協働的な学びを通して、英語で即興的なやりとりをしながら問題解決を目指す活動が設定されており、大変工夫されている。

- ・着眼点2－（3）ICTを活用した学習活動について

【三省堂】

二次元コードの数が6者の中で一番多く、解説動画もあり、家庭学習で活用できる。各単元の題材の資料映像も豊富である。

【東京書籍】

二次元コードの内容が大変充実している。授業では、資料映像等を活用し、資格情報支援ができる。また、学習者用のデジタルコンテンツも充実している。特に、解説動画やクイズは、生徒が学習進度に合わせて主体的に活用でき、家庭学習の活用において大変配慮されている。

- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には、【東京書籍】がより適していると考えた。

《報告を受けての質疑応答》

- ・【東京書籍】がよいという決定的な理由は。
⇒【東京書籍】は英語での即興的なやりとりをする場の設定が行われており、小集団での学びという点で、大変工夫されている。
- ・QRコードの点でも【東京書籍】の内容がよいと説明された。もう少し具体的に教えていただけるとありがたい。
⇒【東京書籍】は、単元ごとにまとまっているので、学習進度に合わせて使用できる。また、解説動画があったり、もう一つ進めると単語クイズとか辞書のコンテンツに繋がっていたりしている。子ども達が簡単に、単元の学習を家庭学習で進めていけるところが、【東京書籍】の工夫点だと捉えた。
- ・英語学習において、例えば、外国の生活や景色、観光名所などについて学ぶことも一つの楽しみだと思うが、何か調査してあるか。
⇒単元末で、そのような題材がまとめてあるところがあり、そこで子ども達は調べたり、広げたりしていく。SDGsの観点においても、多様な国のSDGsの学びができる。同様に、文化も学ぶ。資料映像も載っている。資料映像の数はどちらも豊富であるが、扱い使いやすいという点で、【東京書籍】はすぐに資料映像が出せて、さらにイラストではなく、実際の映像が多いというところが、効果的だと思う。

○中学校「英語」教科用図書採択原案について、可決

■「道徳」の調査研究報告

- ・調査した7者【東京書籍】、【教育出版】、【光村図書】、【日本文教】、【学研】、【あかつき図書】、

【日本教科書】は、どの教科書も、巻頭に「道徳科の学び方」がイラストや吹き出し等で分かりやすく掲載されていた。また、教材は、定番のものから、現代的な問題に関するもの、写真や表・グラフ等から情報を拾い出して考えるものなど、生徒が主体的且つ意欲的に学べるように、多様な教材が取り上げられていた。

・絞り込んだ2者について説明

- ・着眼点1－(1) 資質・能力の三つの柱をバランスよく育成について、「生徒が問題意識を持ち、多面的・多角的に考えるための教材及び配列になっているか」という観点で「いじめ」に関する教材で比較

【東京書籍】

3年生の教科書では、3つの教材が全て、視点A「主として自分自身に関する」ものとして取り上げられている。3年間を通して、9つの教材のうち6つが視点Aである。

【光村書籍】

3年生の教科書では、1つは視点C「主として集団や社会との関わりに関すること」、1つは視点A「主として自分自身に関すること」、3つ目は視点B「主として人との関わりに関すること」となっており、複数の視点から「いじめ」について考えることができる教材を配列している。また、教材は、1つ目は「身分による差別意識」、2つ目は「周囲に流される自分の弱さ」、そして3つ目は「相手を理解する心について考える」教材で、発展的な内容になっている。道徳的課題を多面的・多角的に考えられるような教材が掲載されている。

- ・着眼点1－(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、「考え、議論する道徳科の授業を実現するための工夫」で比較

【東京書籍】

イラストと吹き出しで3つの学習過程が説明されている。また、問題解決的な学びと体験的な学び方も掲載している。

【光村図書】

道徳科の時間は、何を学ぶのか、どのように学ぶのかについてイラストで分かりやすく説明してある。【東京書籍】との大きな違いは、35時間のうち1時間を「道徳を始めよう」という授業開きの時間を位置付けていることである。まず、学び方を確認し、3つのポイントを押さえ、巻末の付録教材を活用して学習できるように編纂されている。生徒が、道徳の道徳科の授業で何を大切にすることを理解することは、「考え、議論する授業」の実現をする上で重要だと考える。

- ・同じく、着眼点1－(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、「教材『足袋の季節』で掲載されている発問」で比較

【東京書籍】

「無性に腹がたってしょうがなかったのは、どうしてだろう」と主人公は腹を立てた理由を考えることを通して、客観的に主人公の心情を考える発問となっている。

【光村書籍】

「泣けて泣けて、どうしようもなかったとき、私はどんなことを思っていたのだろう」という発問が掲載されている。「どんなこと」という問いは、主人公を自分と重ねて考えるため、より

多様な思いを生徒から引き出すことができる発問となっている。自分の考えをもち、議論することで他の生徒の様々な価値観にふれ自分の考えをより深めていくことを大切にしているという点からも、発問がより精選されていると考える。

- ・比較検討した結果、可茂地区の生徒には、【光村図書】がより適していると考えた。

《報告を受けての質疑応答》

- ・同じ資料の描き方、表し方について、教科書の編集者の意図によって、同じ資料でも終わり方が微妙に違っていたりするのではないかと思うが、その点について教えてほしい。
⇒その点には着目をしていなかったが、「足袋の季節」では終わり方に、大きな違いはなかった。
- ・【あかつき図書】と【日本教科書】の特徴について簡単に教えていただけるとありがたい。
⇒【日本教科書】については、自分を重ねて考える発問があったり、問題解決的な学習として話し合いを仕組むような場面が設けられていたり、資料の後に「マイプラス」というページで学習したことを膨らませるようになっていたりする。【あかつき図書】については、教材が伝統的なものから現代社会の段階に至るまで、様々なジャンルがある。また、写真だけで構成されているものや漫画などを使ったものなど、子どもたちが意欲的に学習できるような教材等も含まれていた。発問については、どちらの教科書にも、きちんと考えを深められるような発問が提示されていた。
- ・「足袋の季節」の「泣けて泣けて、どうしようもなかったとき、私はどんなことを思っていたのだろう」という発問のように、【光村図書】には、より共感的に捉え、より多様な思いを生徒から引き出すことができる発問が多くあるのか。
⇒3年生の教科書では、価値に気づいて主人公が自分を見つめるところに着目した発問が多かったと思う。

○中学校「道徳」教科用図書採択原案について、可決

■「令和7年度使用小学校教科用図書可茂地区採択原案」を提示し、審議
全員一致で原案通り可決

■特別支援学級における一般図書について、適正な採択への配慮のお願い

(5) 連絡

- ・7月5日以降に各市町村（組合）教育委員会は採択協議会の採択原案を議決し、7月31日までに完了することを確認
- ・情報公開について、情報公開の対象及び情報公開の窓口を確認
- ・本協議会に係る情報について、8月31日までは非公開であるため、内容等について他言しないよう依頼

(6) 可茂地区採択協議会会長 挨拶

- ・本協議会出席へのお礼
- ・協議会の閉会を宣告